

日本学術会議 自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会

自動運転企画分科会（第 25 期 第 7 回） 議事要旨

日 時 令和 4 年 12 月 10 日(土)10：00～12：00

会 場 オンライン開催(Zoom)

参加者（敬称略 順不同） 永井、大倉、鎌田、家田、藤井、宮崎、遠藤、向殿、有本、須田、
松宮、中野

資 料

資料 1：第 6 回議事要旨（案）

資料 2：提言の目次（案）

資料 3：意思の表出の申出書（案）

議 題

（１） 前回議事要旨の確認

前回議事要旨の確認がなされ、見解の提出の経緯について、永井委員長から説明がなされた。

（２） 見解案の経緯について

高齢者事故等の社会問題への対応が求められるとの意見が出たが、日本学術会議では、もう少し長い目で考えるべきことを書くように求められているとの説明があった。

（３） 期末に予定する提言の基本構想について

目次案について、永井委員長から説明がなされた。

提言には、過疎化、障害者、薬剤等の課題に対する対応、法整備、ルール作りにつながる事が期待されている。一方、自動運転には常にリスクはあるので、社会がどれくらいリスクを受け入れるのか、安全目標と社会受容性の論点を明記すべきであるとの意見があった。日本学術会議が提言をしても、政策につながるとは限らないので、問題意識を明確に書いておくべきであるという意見が出された。

境町の事例のように、住民が自動運転の機能を高めようとすることは特筆すべきである。ローカルの多様性という視点があっても良い。レベル4実装が来年実現しても、速度が遅い。既存の交通システムにとって代わる形になるか疑問である。境町では、速度が遅いのもありだと、住民が受け入れている面もある。住民や地域によって価値観は異なることは考えておくべきである。地域の視点から意見も載せるべきであるとの意見があった。

自動化のあるべき姿の議論も必要である。航空機のようにあえて完全自動にしないという選択肢もある。社会デザインも含めて提言に書く必要があるとの議論があった。

(4) その他

鎌田幹事より、提言用メモ案の説明があった。

1/31までに申し出を提出。最終的なものは4月頃に対応委員会に提出するので、3月中にはほぼ完成させたい。課題別委員会は2月か3月に開催予定であるので、そこで委員の意見を伺うようにしたい。細かい議論は、小委員会で進めることとする。

以上（中野記）